

SHURE®



PSM® 700

ワイヤレスパーソナルモニターシステム
ユーザーガイド





この記号は、この装置内に感電の危険性のある高電圧があることを示します。



この記号は、重要な操作・メンテナンスの説明が装置添付の文書に記載されていることを示します。



警告！

極度の大量音でこの装置を使用すると、聴覚を恒久的に損なうことがあります。

できるだけ小さな音量で使用して下さい。

このシステムを安全にご利用いただくために、過剰な音圧レベルで長時間聞かないようにして下さい。聴覚を損なわないようにするため、各音圧に耐えられる最長限度時間の米国労働安全衛生局 (OSHA) ガイドラインを下記に記載しますのでご利用下さい。

音圧レベル 90 dB で 8 時間

音圧レベル 95 dB で 4 時間

音圧レベル 100 dB で 2 時間

音圧レベル 105 dB で 1 時間

音圧レベル 110 dB で ½ 時間

音圧レベル 115 dB で 15 分間

音圧レベル 120 dB - 避けて下さい。聴覚を損なう危険性があります。

人間の鼓膜における音圧レベル (SPL) を正確に測定するのは困難です。耳内の SPL は、PSM の音量設定だけでなく、フロアウェッジその他の装置による周辺音によっても異なってきます。耳内の SPL を測定するには、高品質のヘッドフォンをしっかりと装着して、音を遮断することも重要です。

この製品の使用に際して、あなたの耳を保護するための方法を下記に挙げます。これに従ってください：

- 適切に聞こえる程度にまで音量を上げます。
- 耳鳴りが感じられる場合は、ゲインレベルが高すぎる可能性があります。ゲインレベルを下げてみてください。
- 聴覚専門医による定期検査を受けて下さい。耳垢が過剰に溜まった場合は、本システムの使用を中止し、聴覚専門医の診察を受けて下さい。
- 感染を防ぐため、イヤープラグ部分は使用前と使用後に消毒液で拭きます。耳に不快感や炎症が生じた場合は、イヤフォンの使用を中止して下さい。

安全にお使いいただくために

危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告

この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- 整備の際は、資格のある整備担当者に必ずご相談ください。電源コードやプラグの損傷、液体や異物が装置内に入り込んだ場合、装置が雨や湿気にさらされた場合、正常に作動しない場合、装置を落とした場合など、装置が何らかの状態に損傷した場合は、整備が必要です。
- 装置に水滴やしぶきが付かないようにしてください。装置の上に花瓶などの液体の入った物を置かないでください。
- 本製品の改造は試みないでください。改造した場合には怪我や製品故障の原因となります。

注意

- この製品は水の近くで使用しないでください。
- 掃除は、必ず乾いた布で拭いてください。
- 通風口を塞がないようにしてください。使用説明書に従って設置してください。
- ラジエーターや暖房送風口、ストーブ、その他、熱を発生する機器（アンプなど）の近くには設置しないでください。
- 有極プラグやアース付きプラグは安全のために用いられています。無効にしないようにしてください。有極プラグは、2本のブレードのうち一方が幅広になっています。アース付きプラグは、2本のブレードの他に、3本目のアースの棒がついています。幅広のブレードや3本目の棒は、安全のためにあるものです。これらのプラグがコンセントの差し込み口に合わない場合は、電気工事業者に相談し、コンセントを交換してもらってください。
- 電源コードは、特にプラグ差し込み部分、延長コード、機器から出ている部分において、引っかかって抜けたり挟まれたりしないように保護してください。
- アタッチメントや付属品は、必ずメーカー指定のものをご利用ください。
- カートやスタンド、三脚、ブラケット、テーブル等は、メーカー指定のものか、この装置用に販売されているものを必ずご利用ください。カートを使用する場合は、装置を載せて移動する際、怪我をしないよう注意してください。
- 雷を伴う嵐の際、または長期間使用しない場合は、プラグをコンセントから抜いてください。



●送信機技術基準適合証明ラベルについて

送信機は電波法で規定される技術基準適合証明品です。証明番号を記した証明ラベルが1台ずつ貼ってあります。表示の変更、除去は法律で禁じられていますので、みだりに剥がしたり、損傷することのないよう注意してください。

●違法改造について

機器を分解したり、内部の部品に触れたりしないでください。改造等は法律で禁じられています。

クイックスタート

P7T トランスミッターのセットアップ

1. 付属の電源コードを使用して、トランスミッター装置を電源に接続します。

メモ：装置への電源供給を完全に切るには、壁のコンセントからプラグを抜くか、背面の着脱電源コード連結部を抜いて下さい。壁のコンセントや背面の電源コード連結部に容易にアクセスできるようにしておいてください。

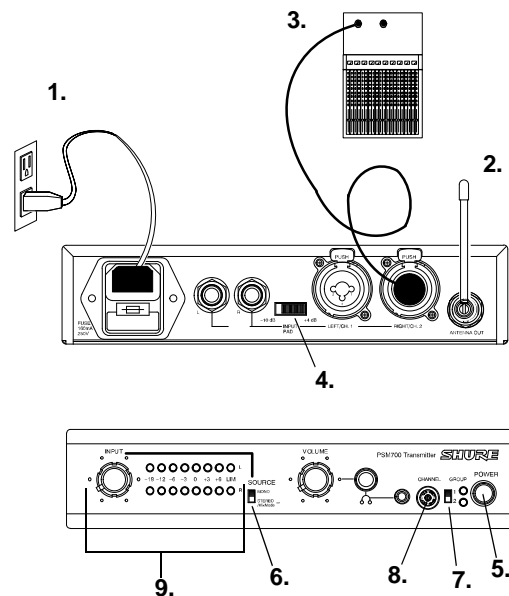
2. 付属のアンテナを ANTENNA OUT BNC コネクタに取り付けます。
3. ミキサーなどの音源を、トランスミッターの音声入力に接続します。入力ジャックの両方を使用することができます。モノラル音源の場合は、入力ジャックのいずれか一方だけを使用します。

メモ：入力はすべてファントム電源であり、最高60 VDCまで保護されています。

4. 音源の信号レベルに応じて、PAD スイッチを +4 dB または -10 dB のいずれかに設定します。
5. トランスミッターのスイッチをオンにします。
6. 入力を1つだけ使用している場合は、SOURCE スイッチを MONO にします。それ以外は、STEREO/MixMode にします。
7. GROUP スイッチを上グループ 1 にします。
8. CHANNEL ダイヤルを、使用していないチャンネルのいずれかにします。

メモ：チャンネルの選択を参照して下さい。

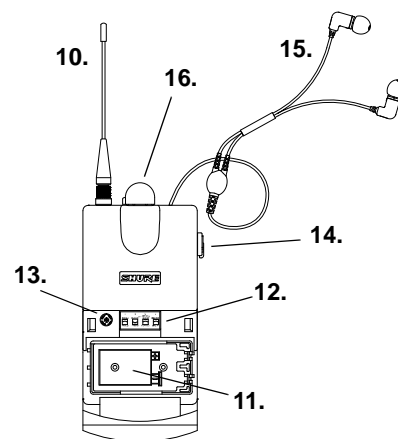
9. 音源のスイッチをオンにして、LED が -3 dB ~ +3 dB の範囲になるようにレベルを調節します。



P7R レシーバーのセットアップ

10. アンテナを ANTENNA コネクタに取り付けます。赤い丸印で溝を合わせます。
11. 9V アルカリ電池を入れます。
12. DIP スイッチを設定します。(ディップスイッチを参照)
13. トランスミッターと同じチャンネルに合わせます。
14. バランスコントロールを中央のツメ位置に合わせます。
15. イヤホンジャックを差し込み、耳にイヤフォンを挿入します
16. レシーバーの音量ダイヤルを時計方向にカチッと音がするまで回し、オンにします。

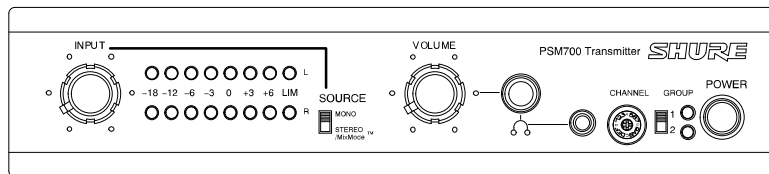
メモ：音が何も聞こえない場合は、トランスミッターの RF LED をチェックして、トランスミッターからの無線信号が受信されていることを確認して下さい。



問題がある場合はこのマニュアルのトラブルシューティングの項を参照して下さい。

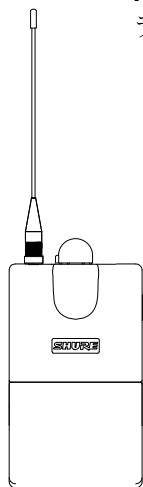
問題のトラブルシューティングを実施する前に、音量を下げて下さい。

構成装置



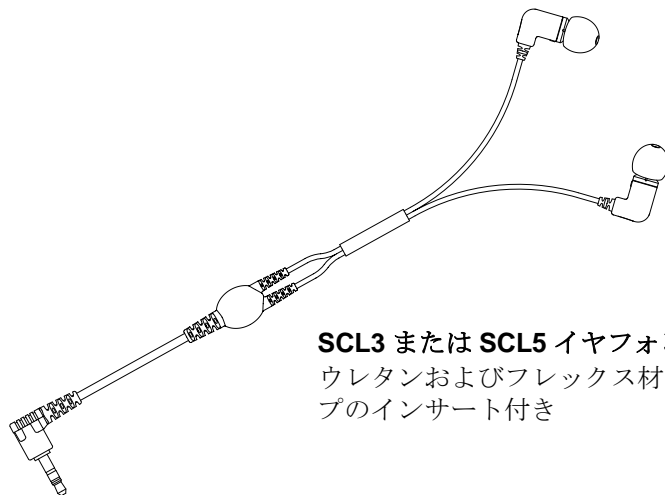
P7T トランスミッター

ラック取付け金具、PA715 取外し可能アンテナ付き



P7R ボディパックレシーバー

PA710 取外し可能アンテナ付き



SCL3 または SCL5 イヤフォン

ウレタンおよびフレックス材質チップのインサート付き

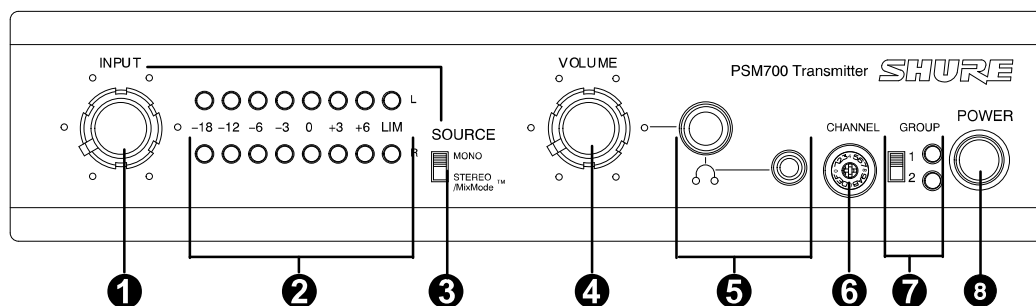
機能

- UHF で作動。
- 様々なミキシングモニターに適したステレオまたは MixMode™ コントロール。
- 各システムでユーザーが選択可能な周波数は 32。
- 互換周波数が最高 16 で、16 種のミキシングに対応。
- あらゆる Shure ワイヤレスシステムに対応する周波数 (国によって異なる)。
- MPX ステレオ音声伝送。
- P7T で高周波ブースト切替え可能。
- P7T に、+4 dBu および -10 dBV 入力レベル選択スイッチ。
- P7T に、電子的にバランスされた一体化 1/4-in. XLR コネクターがあり、これを使用してバランス出力またはアンバランス出力で利用できる。
- P7R レシーバーに音量ダイヤルとバランスダイヤルあり。
- P7T に内部リニア電源があり、120 VAC と 230 VAC で切替え可能。
- 固定しきい値および変調限界インジケータを有するピークトランスミッター変調リミター。
- 複数のミキシング設定ができ、設置の簡単な、P7T ループアウトコネクター。
- トーンキースケルチ回路。
- P7T はハーフラックシャシー型で、取付け金具付き。
- P7T および P7R はすべて金属製。
- P7T にはローカルでのリスニング用にヘッドフォンモニターあり。
- 耳穴にぴったりフィットするイヤフォンにより周辺音のレベルが低下。

コントロールとコネクター

P7T トランスミッター

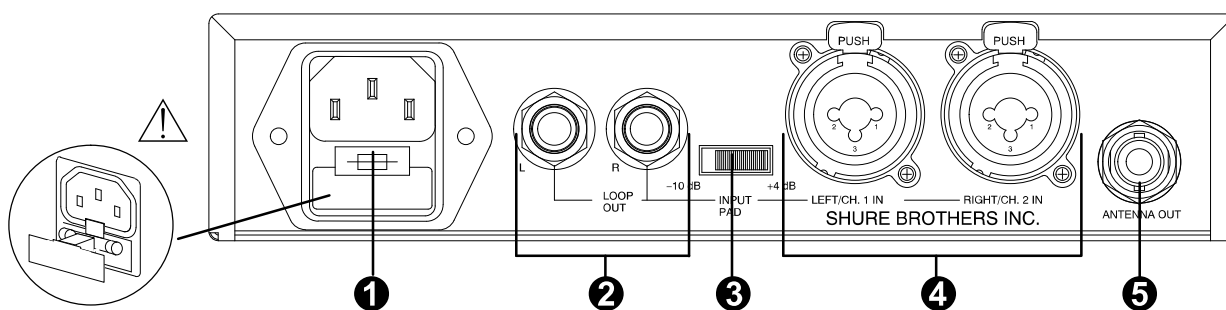
フロントパネル



- 1 入力コントロール (INPUT)**。入力レベルをトランスミッターモジュレーターに合わせてコントロールします。音質を最高にするには、INPUT メーターが -3 dB ~ $+3 \text{ dB}$ の範囲になるようにこのコントロールを調節します。
- 2 ステレオ入力メーター**。無線信号の変調レベルを示します。
重要：LIM (限界) LED が点灯しているときは、システムに過負荷がかかっています。入力レベルを下げて下さい。
- 3 SOURCE スイッチ**。入力を1つだけ使用している場合は、SOURCE スイッチを MONO にします。それ以外は STEREO/MixMode にします。
- 4 イヤホン音量コントロール (VOLUME)**。トランスミッターのイヤホンコネクターの音量を調整します。このコントロールは、レシーバーの音量レベルには影響しません。
- 5 イヤホンコネクター：1/4 in フォンジャックと 3.5 mm (1/8 in) ミニ**。
左 = チップ、右 = リング、アース = スリーブ。これら出力は同時に1つしか使用できないことに注意して下さい。
- 6 チャンネル選択コントロール (CHANNEL)**。
チャンネルの選択を参照して下さい。
- 7 チャンネルグループスイッチ (GROUP)**。
チャンネルの選択を参照して下さい。
- 8 電源ボタン (POWER)**。

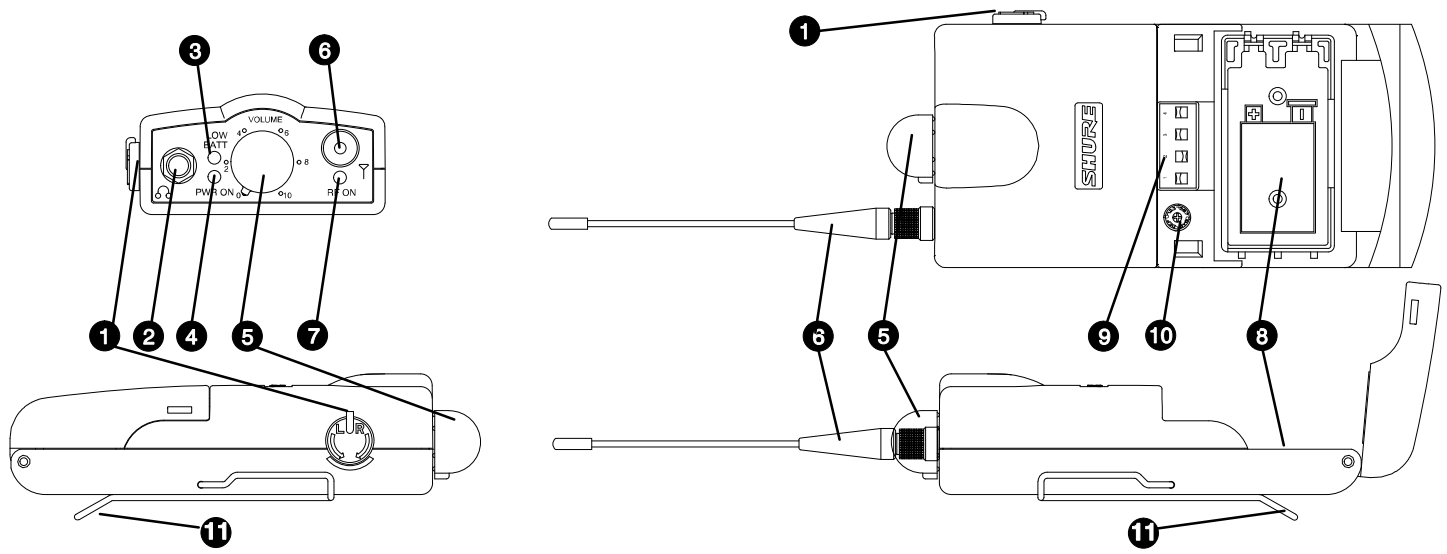
メモ：装置への電源供給を完全に切るには、壁のコンセントからプラグを抜くか、背面の着脱電源コード連結部を抜いて下さい。壁のコンセントや背面の電源コード連結部に容易にアクセスできるようにしておいてください。

リアパネル



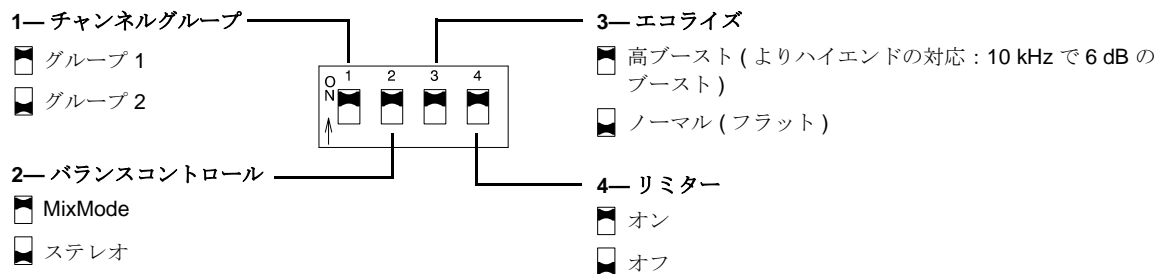
- 1 電源コネクターとヒューズ**。付属の電源コードで、トランスミッターを電源コンセントに接続します。ヒューズは下の引き出し部に入っています。
- 2 LOOP OUT コネクター - 1/4 in フォンジャック、バランス**。このマニュアルの LOOP 使用の項を参照して下さい。
- 3 INPUT PAD スイッチ**。トランスミッター入力に接続しようとしている音源の信号レベルに応じて、PAD スイッチを $+4 \text{ dB}$ あるいは -10 dB に設定して下さい。(音源の出力仕様を参照して下さい。)
- 4 入力コネクター (LEFT/CH. 1 および RIGHT/CH. 2)**。バランス出力またはアンバランス出力に接続します。1/4 インチ・フォンジャックおよびオスの XLR コネクターの両方が使用できます。モノラル入力にはいずれか一方のコネクターを使用します。
- 5 アンテナコネクター (ANTENNA OUT)**。50 Ω BNC コネクター。付属のアンテナを取り付けます。また、トランスミッターをラックに取り付ける場合は、アンテナのフロント取付けを参照して下さい。

P7R レシーバー



- 1 バランスコントロール。ステレオモードでは、このコントロールで左右のバランスを制御します。MixMode™では、2つのトランスミッター入力の相対レベルを制御します。
- 2 イヤホンコネクター。3.5 mm (1/8-in.) フォンジャックに SCL3 または SCL5 イヤフォンを接続します。左 = チップ、右 = リング、アース = スリーブ。
- 3 電池残量警告 LED (LOW BATT)。音量に応じて、電池の作動時間が残り約 45 分になると点灯します。
- 4 電源 LED (PWR ON)。電源がオンで電池残量が充分であるときに点灯します。
- 5 電源スイッチと音量コントロール (VOLUME)。
- 6 アンテナとコネクター。アンテナをアンテナコネクターに取り付けます。赤い丸印で溝を合わせます。
- 7 RF 信号 LED (RF ON)。P7R がトランスミッターからの信号を受信しているときに点灯します。
- 8 電池コンパートメント。9 ボルトの電池 1 個が入ります。両側のラッチを押して引き出し、カバーを開けて下さい。
- 9 DIP スイッチ。DIP スイッチの項、または電池コンパートメントカバーの内側のラベルを参照して下さい。
- 10 チャンネルセレクトター。チャンネルの選択を参照して下さい。
- 11 リバーシブルベルトクリップ。ボディパックを装着したときにアンテナが下向きになるよう、ベルトクリップを取り外して逆向きにすることができます。

DIP スイッチ

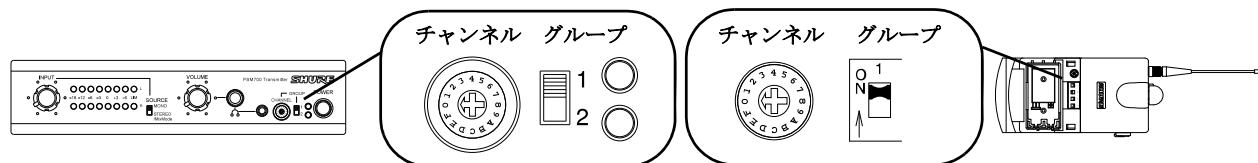


重要: リミターは、予測外の信号ピークに対応するものです。長時間の高 SPL レベルを防止するためのものではありません。このリミターは、Shure E シリーズイヤフォン用に最適化されています。SPL 制限最大値は、他のイヤフォンと異なる場合があります。外部リミターを使用している場合を除き、リミターのスイッチはオフにしないで下さい。

チャンネルの選択

PSM700 システムでは合計 32 チャンネルが使用できます。チャンネルは 2 つのグループに分かれます: Group 1 (1 ~ 16 チャンネル) と Group 2 (17 ~ 32 チャンネル) です。電波干渉が生じた場合や、複数のシステムを同時に使用する場合は、チャンネルを変更して下さい。

- トランスミッターとレシーバーは同じグループの同じチャンネルに設定しなければなりません。
- 複数のシステムの場合は、それぞれ違うチャンネルを使用しなければなりません。
- チャンネルコントロールを回すには、付属のドライバーを使用して下さい。



チャンネルスキャンモード

干渉のないチャンネルがなかなか見つからない場合は、レシーバーのチャンネルスキャンモードを使用します。通常、トランスミッターからの信号が検知されない場合は、レシーバーはミュートになります。しかしこのモードでは、レシーバーはミュートにならないため、干渉の様子を聞くことができます。

1. PSM700 のすべてのトランスミッターをオフにします (その他のワイヤレスシステムはオンにしておきます)。
2. レシーバーの設定をグループ 1 (DIP スイッチ 1 を上)、チャンネル 1 (チャンネル選択ダイヤル) にします。
3. レシーバーの音量を下げて最小レベルにしてから、イヤフォンを装着します。
4. レシーバーをオンにして、5 秒以内に、DIP スイッチ 1 をいったん下げ、また上げます。
5. グループ 1 と 2 の全チャンネルについて音を聞きます :
 - クリアなチャンネルでは、ピュアで干渉のないホワイトノイズが聞こえます。
 - クリック音や異音などのノイズがある場合は、他装置からの干渉があることを示します。
6. レシーバーをオフにし、再度オンにすると、通常の使用モードに戻ります。最も干渉の少なかったチャンネルを選択して下さい。

演奏のミキシングのモニタリング

複数のシステムをセットアップする場合は、各トランスミッターをチェックしモニターするためのレシーバーを 1 台余分に使用します。モニターするトランスミッターに対する余分のレシーバーのグループとチャンネルを設定して下さい。ステレオまたは MixMode でチェックする場合、必要に応じて、バランスコントロールを調節して下さい。

トラブルシューティング

問題	解決策
レシーバーで音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> • トランスミッターの電源が接続されていて、オンになっていることを確認して下さい。 • トランスミッターのヘッドフォンモニターを聞いて、音源入力があるかチェックして下さい。 • トランスミッターとレシーバーが同じチャンネルおよびグループに設定されていることを確認して下さい。 • イヤフォンがレシーバーに接続されていることを確認して下さい。 • レシーバーがオンになっていて、電池残量も充分であることを確認して下さい。 • レシーバーとトランスミッターのアンテナが正しく取り付けられていることを確認して下さい。
レシーバーの範囲が狭い	<ul style="list-style-type: none"> • アンテナがすべて、ジャックにしっかりと挿入されていることを確認して下さい。 • トランスミッターとレシーバーの間の見通し線を確保して下さい。 • 他のグループおよびチャンネル設定を試して下さい。 • テレビのチャンネル干渉を調べて下さい。 • PA715 アンテナがリモート取付けでないことを確認して下さい。
レシーバーの音に濁りや歪みがある	<ul style="list-style-type: none"> • 同じ周波数で他のトランスミッターが使用されていないか確認して下さい。 • トランスミッターの入力レベルが 0 dB ± 3 dB であることを確認して下さい。 • トランスミッターのヘッドフォンモニターを聞いて、音源入力があるかチェックして下さい。 • 複数のトランスミッターを使用する場合は、トランスミッターアンテナとレシーバーの間が少なくとも 10 ft 以上になるよう維持して下さい。
レシーバーのイヤフォンで出力音量が低い	<ul style="list-style-type: none"> • トランスミッターの入力レベルが 0 dB ± 3 dB であることを確認して下さい。そうでない場合は、トランスミッターパッドを -10 dBV 位置に切り替えて下さい。

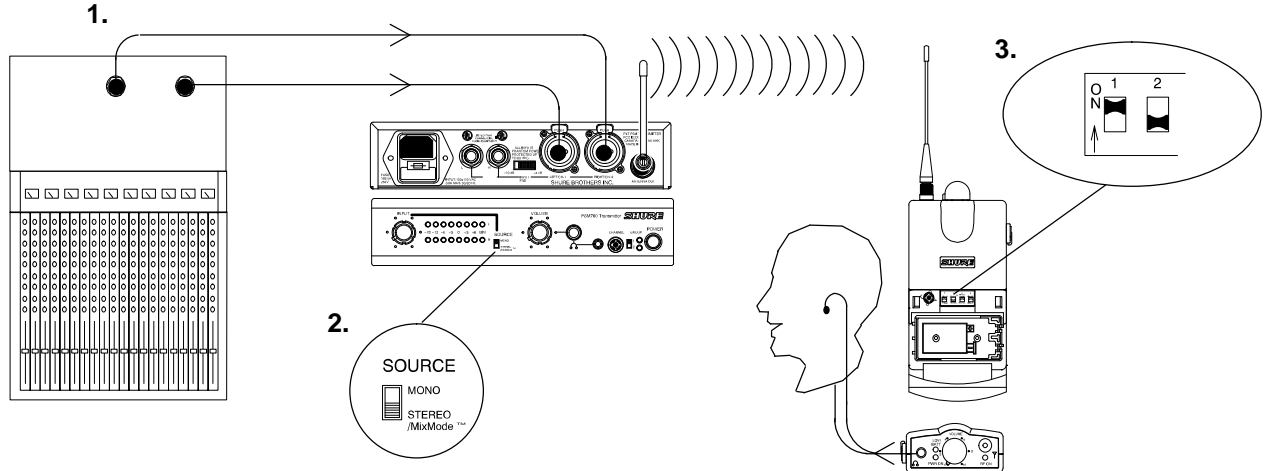
使用モード

この項では、使用時の3つのモードについて説明します。複数システム使用などの追加設置については、**LOOP 使用**の項を参照して下さい。

メモ：下の図では、ミキシングコンソールが音源として示されていますが、**LINE** レベルでは、バランス、アンバランスを含めあらゆる音源出力が使用できます(例えば CD プレーヤー、DAT 装置、マイクロフォンプレアンプなど)。**LINE** レベルの音源信号を使用すると最高の音質が得られます。

ステレオ

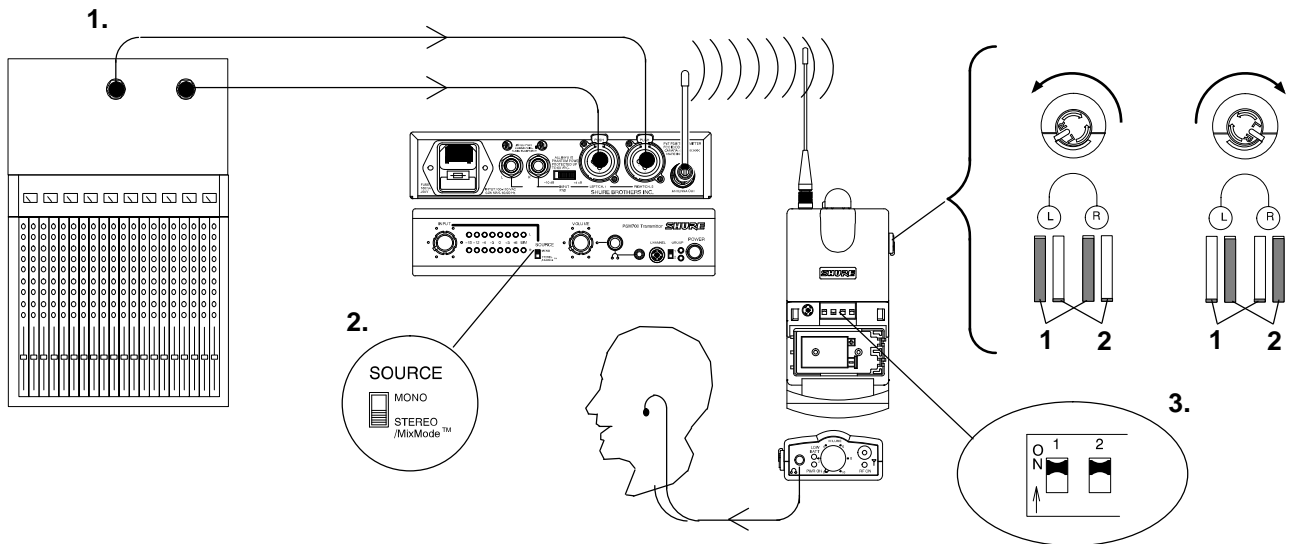
ミキサーからの出力1および2がステレオミキシングの左右チャンネルになる場合は、このセットアップを使用します。左チャンネルが左のイヤフォンに、右のチャンネルが右のイヤフォンにつながります。レシーバーのバランスコントロールは、ステレオの左右イメージに対応して動きます。



1. ミキサーの出力をトランスミッターに接続します。
2. P7T フロントパネルの SOURCE スイッチを STEREO に設定します。
3. P7R レシーバーの DIP スイッチ 2 を STEREO に設定します。

MixMode™ 使用

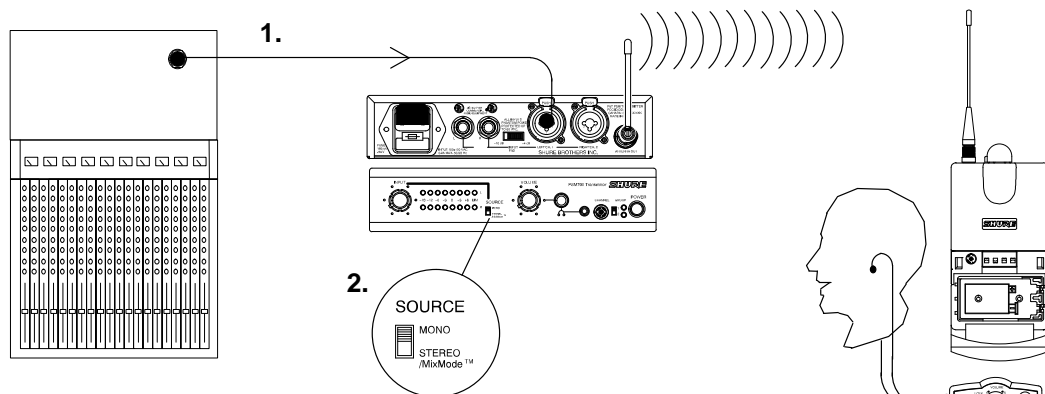
ミキサーからの出力1および2が別個のモノラルのミックスとなる場合は、このセットアップを使用します。各ミックスがイヤフォンの両側につながります。レシーバーのバランスコントロールを使用して、一方のミックスの音量を他方より大きくすることができます。全体の音量は両耳で同じになります。



1. ミキサー出力をトランスミッターに接続します。
2. P7T トランスミッターの SOURCE スイッチを STEREO/MixMode に設定します。
3. レシーバーの DIP スイッチ 2 を MixMode に設定します。

モノラル

ミキサーからの出力が1つだけの場合、このセットアップを使用します。



LOOP 使用

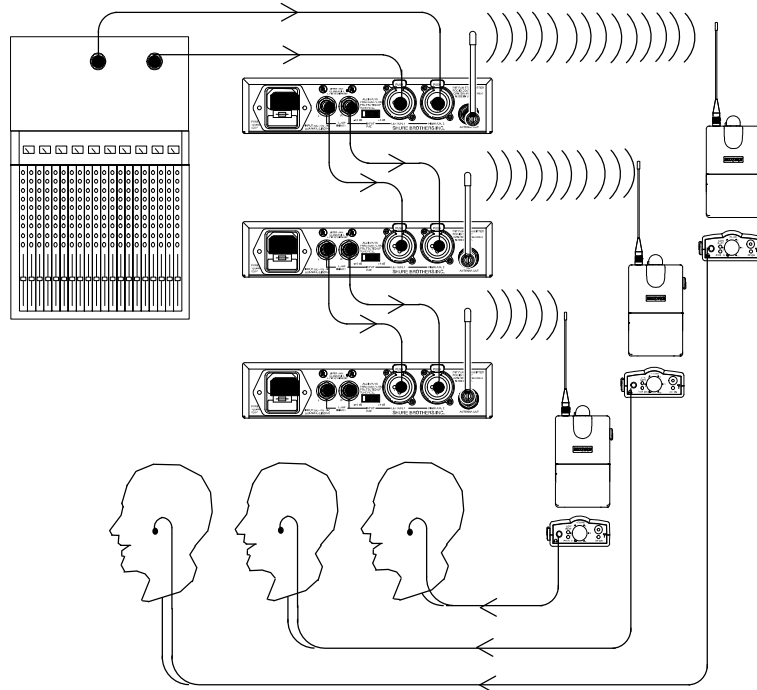
LOOP OUT L (左) および R (右) 出力を使用して、トランスミッターへの音声信号のコピーを他の装置に送信します。LOOP 出力の使用には様々な方法がありますが、ここではいくつか例を挙げます。

メモ: 入力レベルコントロールと入力パッドは、LOOP 信号のレベルには影響しません。

複数システムでステレオの場合

LOOP OUT コネクターを使って、ステレオ信号の一方をミキシングコンソールから複数の P7T または P6T ワイヤレストランスミッターへ送信します。これにより、ミキシングコンソールの送信機能に空きができ、他の用途に回すことができます。

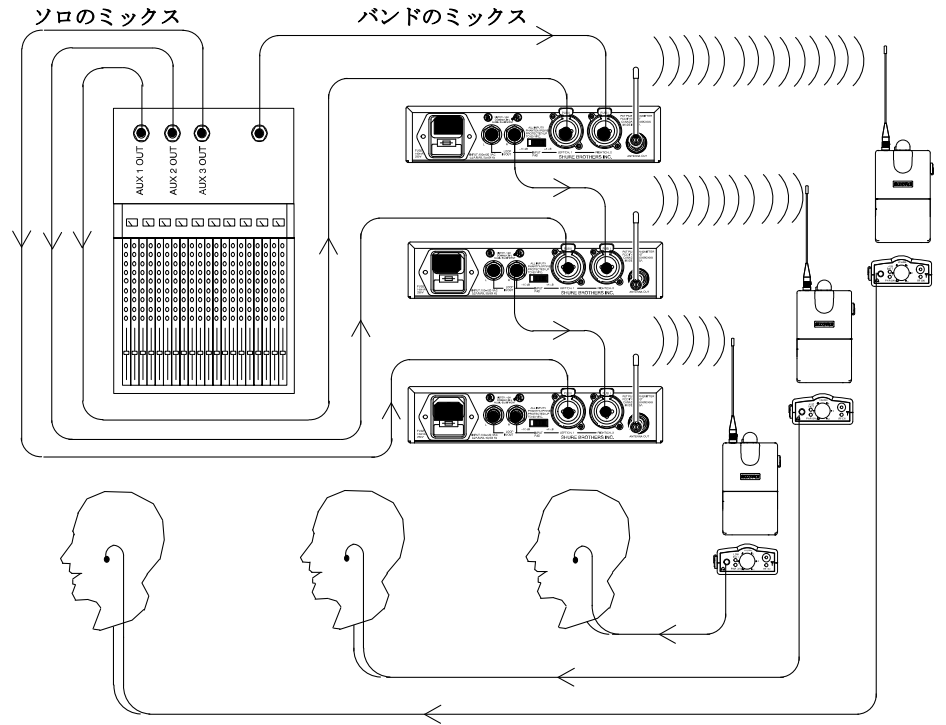
各システムを、ステレオコントロール用に設定します (ステレオコントロールの項を参照)。最初のトランスミッターをミキサーに接続します。次のトランスミッターを最初のトランスミッターの LOOP 出力に接続します。使用する全トランスミッターをチェーン状に接続していきます。



複数システムで MixMode の場合

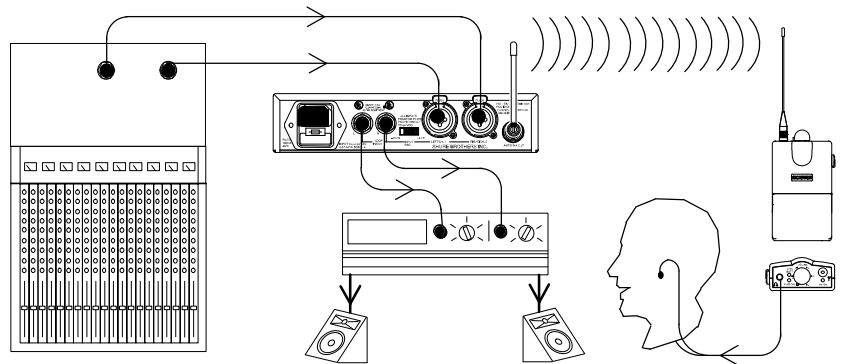
演奏者によって、自分の声や演奏をよく聞きたい場合もあれば、バンドの方をよく聞きたい場合もあります。このセットアップを使用すると、各演奏者がバンド全体と自分の演奏を合わせて聞くことができ、レシーバーのバランスコントロールを使って好みのミキシングを行うこともできます。

各システムを MixMode に設定します。ミキシングコンソールから、バンド全体のミックスを、最初のトランスミッターの入力 2 につなぎます。次のトランスミッターの入力 2 を、最初のトランスミッターの LOOP OUT R に接続します。全トランスミッターについて同様にチェーン接続をします。次に、ミキシングコンソールの AUX 出力を使用して、各演奏者のソロミックスを作成します。各ソロミックスを各演奏者のトランスミッターの入力 1 に送信します。



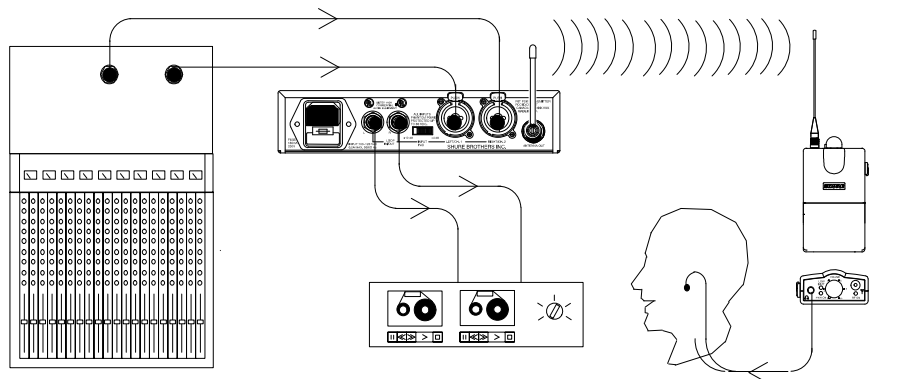
フロアモニター

LOOP OUT コネクターをステージ用スピーカーのアンプに接続します。P7R とステージ用モニターが同じ音声を受け取ります。



録音装置

演奏を録音するには、テープデッキや DAT などの録音装置の入力に、LOOP 出力を接続します。



仕様

システム

送受信周波数帯域

722 ~ 865 MHz (国によって異なる)

使用距離範囲

300 ft. (条件によって異なる)

周波数特性

50 ~ 15 kHz (+0, -3 dB re 1 kHz); イヤフォンによって異なる

イメージ抑圧比

80 dB 標準

スプリアス抑圧比

80 dB 標準

全高周波歪率 (1 kHz)

0.8% 標準 (± 35 kHz 偏差)

周波数変調

FM ± 35 kHz 偏差 (公称)、MPX ステレオ

チャンネルセパレーション

35 dB 標準

信号対雑音比

80 dB typical (A-weighted)

使用温度範囲

-7 °C ~ +49 °C (+20° F ~ 120° F)

注記: 電気的安全性の認定は最高周囲温度 35°C に基づいています。

電池寿命

4 ~ 6 時間 (音量によって異なる)

極性

P7T 音声入力から P7R 音声出力へ: 非反転

XLR: ピン 3 に対してピン 2 が正

1/4 in TRS: リングに対してチップが正

P7R レシーバー

RF 感度

0.7 μV 標準

スケルチしきい値

2 μV 標準

アンテナ入力インピーダンス

50 Ω 標準

アンテナ

外付け型、ねじ式コネクタ

電源

9 V 電池 (アルカリ電池推奨)、
4 ~ 6 時間 (音量によって異なる)

音声出力コネクタ

3.5 mm Stereo (左 = チップ、右 = リング、アース = スリーブ)

最小負荷インピーダンス

16 Ω

本体重量: 0.23 kg (0.52 lbs.)

外形寸法

27.18 mm × 64.52 mm × 85.09 mm
(1.070 in × 2.540 in × 3.350 in)

P7T トランスミッター

RF 出力電源

100 mW (+20 dBm) 標準伝導
(国によって異なる)

変調リミター

内部ピークリミター (圧縮比 10:1 以上)

アンテナ

外付け型ホイップアンテナ、50 Ω BNC コネクタ

電源要件

P7T: 90 ~ 120 Vac, 50/60 Hz

EP7T: 220 ~ 240 Vac, 50/60 Hz

メモ: この製品は、電源スイッチがオフ位置になっていても主電源から切断されているわけではありません。

電流

最大 115 mAac (120 Vac)

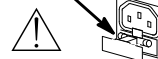
最大 55 mAac (230 Vac)

ヒューズ

P7T: 90 ~ 120 Vac, 160 mA/250 V (SLO-BLO®)

EP7T: 220 ~ 240 Vac, 80 mA/250 V 遅延

5 mm x 20 mm



寸法

44.5 mm × 196.8 mm × 241.3 mm
(1 3/4 in × 7 3/4 in × 9 1/2 in.)

重量

1.497 kg (3 lb 4.8 oz.)

P7T 音声入力 (LEFT/CH.1 および RIGHT/CH.2)

	XLR	1/4-inch フォンジャック
設定	電子的バランス	電子的バランス
実効インピーダンス	20 kΩ	20 kΩ
公称入力レベル	+4 dBu (+4 入力レベル) -10 dBV (-10 入力レベル)	+4 dBu (+4 入力レベル) -10 dBV (-10 入力レベル)
最大入力レベル	+25 dBu (+4 入力レベル) +13 dBu (-10 入力レベル)	+25 dBu (+4 入力レベル) +13 dBu (-10 入力レベル)
ピンの割当	ピン 1 = アース ピン 2 = ホット ピン 3 = コールド	チップ = ホット リング = コールド スリーブ = アース
ファントム電源保護の有無	保護あり、60 VDC まで	保護あり、60 VDC まで

P7T 出力 (L/R LOOP)

設定:	電子的バランス
実効インピーダンス:	20 kΩ
公称出力レベル:	+4 dBu (+4 入力レベル) -10 dBV (-10 入力レベル)
最大出力レベル:	+25 dBu (+4 入力レベル) +13 dBu (-10 入力レベル)
ピンの割当:	チップ = ホット リング = コールド スリーブ = アース
ファントム電源保護の有無	保護あり、60 VDC まで

認証

P7T : FCC Parts 74, FCC ID DD4P7T 認定。カナダ IC RSS-123 認定。UL および cUL において UL813 および CSA C22.2 No. 1 に記載。

J 60065 に対し TÜV DENAN  認定。

EP7T : 欧州 R&TTE Directive 99/5/EC の要件に適合し、CE マーク許可を取得。EN 300 422 Parts 1 および 2 で型式認可。EMC Standard EN 301 489 Parts 1 および 9 の要件に適合。EN 60065 に対し VDE GS 認定。

P7R : FCC Part 15 の適合認定 (DoC) において認可。カナダ IC RSS-123 認定。欧州 R&TTE Directive 99/5/EC の要件に適合し、CE マーク許可を取得。EMC Standard EN 301 489 Parts 1 および 9 の要件に適合。

本無線装置は「プロのエンターテイメントおよび同様の用途」に使用するためのものです。

メモ : 本無線機器はご使用の地域で認可されていない周波数で操作できる場合があります。国内当局にお問い合わせ、その地域で無線マイクロフォン製品に認可されている周波数の情報を調べて下さい。

免許 : 本機器操作の際、行政上の認可免許が特定地域で要求される場合があります。考えられる必要条件については国内当局にお問い合わせください。

FCC について。P7R レシーバーは FCC 規制 part 15 に準拠しています。操作は次の 2 つの条件の対象となります : (1) 本装置が有害な電波干渉を発生せず、(2) 本装置の使用に望ましくない電波干渉を受けても、これを容認しなければならない。

使用免許について。使用にあたって免許が必要な場合があります。詳しくは各国の通信管轄当局にお問い合わせ下さい。

認可装置に対する改変。Shure Incorporated によって書面で認可されていない変更や改造が行われた場合は、通信基準の適合性に影響が生じるため、その製品を使用する権限が無効となります。

FCC DECLARATION OF CONFORMITY

We,
of

Shure Incorporated
5800 Touhy Ave
Niles, Illinois, 60714-4608 U.S.A
(847) 600-2000

Declare under our sole responsibility that the following product

Model: P7R Description: Receiver

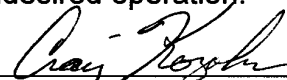
Has been tested and found to comply with the limits for an unintentional radiator device, and approved under the Declaration of Conformity provision of the Part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Signed

Name, Title


Craig Kozokar

Date

November 12, 2003

EMC Project Engineer, Corporate Quality, Shure Incorporated

付属品

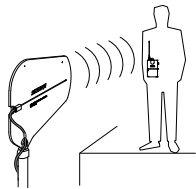
同梱品

ボディバックアンテナ (600 ~ 750 MHz).....	90A8964
ボディバックアンテナ (770 ~ 870 MHz).....	90B8964
トランスミッターアンテナ (600 ~ 750 MHz)	95A8699
トランスミッターアンテナ (770 ~ 870 MHz)	95A8621
ラック取付けキット	PA745
61 cm (2 ft) 同軸ケーブル (RG-58/U).....	UA802

オプション

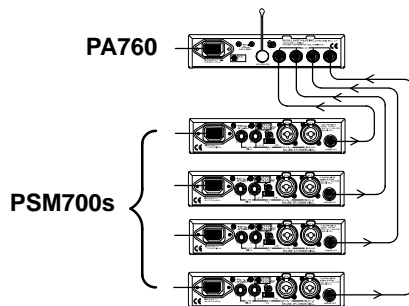
アンテナコンバイナー	PA770 (120 VAC)
.....	PA760 (120 VAC)
.....	PA765E (240 VAC)
.....	PA770E (240 VAC)
単一指向性アンテナ	PA705
10 ft 同軸アンテナケーブル (BNC コネクター)	PA725
ウレタン製イヤースリーブ (黄色) 20 個入り袋	PA750
三段フランジ型イヤースリーブ (2 個)	PA755
フレックス材質チップのイヤースリーブ (S サイズ) 10 個入り袋.....	PA756S
フレックス材質チップのイヤースリーブ (M サイズ) 10 個入り袋.....	PA756M
フレックス材質チップのイヤースリーブ (L サイズ) 10 個入り袋.....	PA756L

PA705 単一指向性アンテナ



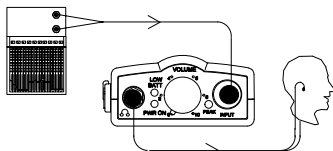
このアンテナは単一指向性でリモート取付けが可能な広帯域伝送アンテナで、カバー範囲がカーディオイド型です。PA705 を使用すると、レシーバーからトランスミッターが実際に見通せなくとも、トランスミッターからレシーバーへの伝送路が確保できます。また、PA705 はある程度のゲインがあるので (指向性があるため)、長距離をカバーするのに役立ちます。

PA760、PA765、PA770 アンテナコンバイナー



最高 4 台のトランスミッターを 1 つのアンテナにまとめることにより、ラックの干渉を減らし、より優れたパフォーマンスを実現します。内部電源を有するハーフラックユニットになっており、移動が可能でセットアップも簡単です。内部変調歪 (IMD) レベルを下げることで、トランスミッター間の干渉が大幅に低下します。お使いのシステムの周波数帯域に合ったモデルをお選び下さい。(PA700 アンテナ同士は縦列に接続できないことにご注意下さい。)

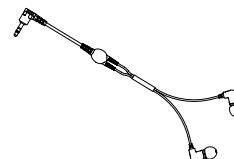
P6HW 有線接続ボディパック



ドラマーやキーボードなどの一部の演奏者は、ステージ上で動き回ることが少ないため、ワイヤレスシステムを使うメリットがあまりありません。このような場合は、Shure P6HW のような有線接続モニターシステムを使用すると、ワイヤレスシステムと同じ機能が低コストで得られます。P6HW にはさらに、より広いダイナミックレンジに対応する入力パッドと、レベルが高すぎる場合に警告する入力ピークインジケーターが含まれています。

SCL シリーズイヤフォン

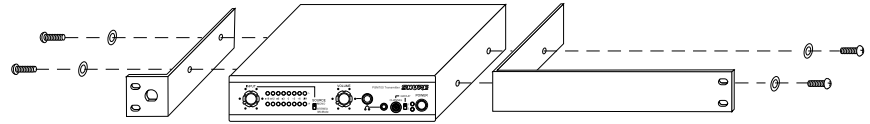
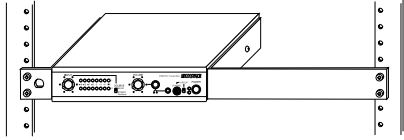
Shure ではお客様のニーズに合わせて様々なタイプのイヤフォンを用意しております。PSM システム専用で設計されているため、優れた音質が得られます。SCL3 型イヤフォンは、より快適な密着フィットを実現するため、カスタム仕様の耳型成形もご利用いただけます。



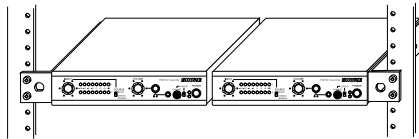
ラック取付け

警告:
ねじを強く締めすぎないで下さい。シャーシが破損
することがあります。

装置 1 台の取付け

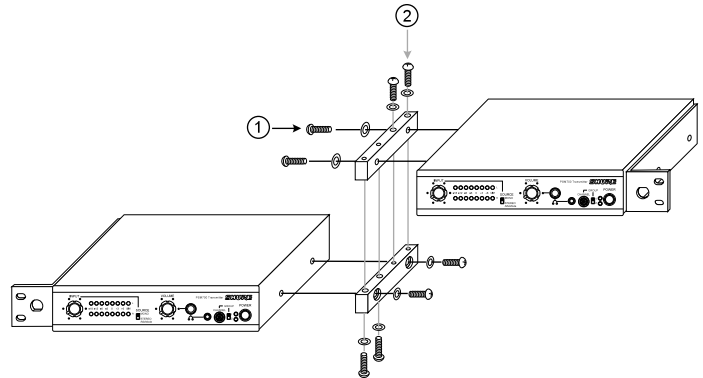


装置 2 台並列の取付け



重要:

リンクバーを取り付ける際、水平穴の凹んだ側が外側になり、垂直のねじ穴および非ねじ穴が揃うようにします。

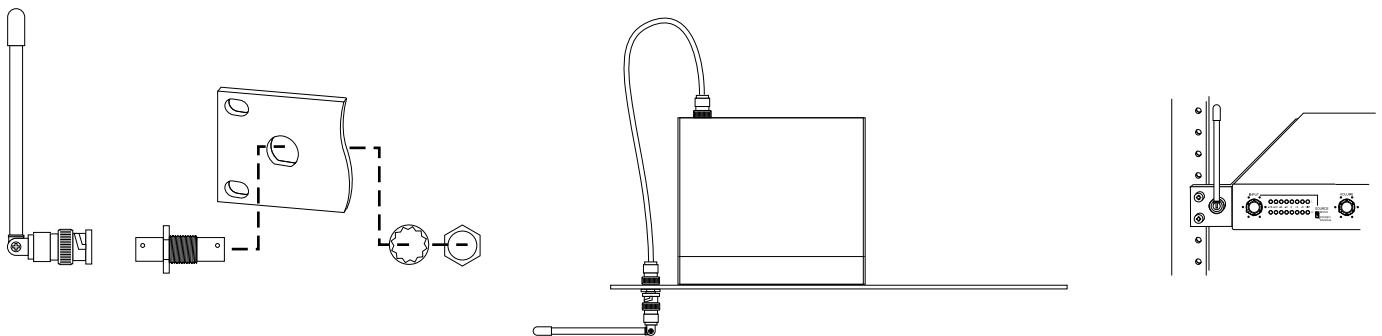


他の Shure 製品との 2 台並列取付け

Shure P7T・P6T トランスミッター、および SC・LX レシーバーは、どの組み合わせでも 2 台並列に取り付けることができます (ただし、異機種を並べるとフロントパネルが揃わない場合があります)。両側に、製品付属のラックイヤーを使用して下さい。リンクバーは共通で使用できます。

アンテナのフロント取付け

ラック取付けの装置の場合は、付属のケーブルとバルクヘッドアダプターを使用してアンテナをフロント側に取り付けます。これにより、他のケーブルがアンテナに絡まって生じる RF 干渉を大幅に減らすことができます。





警告!

極度の高音でこの装置を使用すると、聴覚を恒久的に損なうことがあります。できるだけ低い音量でご使用下さい。このシステムを安全にご利用いただくために、過剰な音圧レベルで長時間聞かないようにして下さい。聴覚を損なわないようにするため、各音圧に耐えられる最長限度時間の米国労働安全衛生局 (OSHA) ガイドラインを下記に記載しますのでご利用下さい。

音圧レベル 90 dB で 8 時間
音圧レベル 95 dB で 4 時間
音圧レベル 100 dB で 2 時間

音圧レベル 105 dB で 1 時間
音圧レベル 110 dB で 1/2 時間
音圧レベル 115 dB で 15 分間

音圧レベル 120 dB - 避けて下さい。聴覚を損なう可能性があります。

鼓膜における音圧レベル (SPL) を正確に測定するのは困難です。耳内の SPL は、PSM の音量設定だけでなく、フロアウェッジその他の装置による周辺音によっても異なってきます。耳内の SPL を測定するには、高品質のイヤフォンをしっかりと装着して、音を遮断することも重要です。

次の一般的なポイントに従って本製品を安全にご利用下さい。

1. 適切に聞こえる程度にまで音量を上げます。
2. 耳鳴りが感じられる場合は、ゲインレベルが高すぎるものが考えられます。ゲインレベルを下げてみて下さい。
3. Shure では、聴覚専門医による定期検査を受けられることを推奨いたします。耳垢が過剰に溜まった場合は、イヤフォンの使用を中止し、聴覚専門医の診察を受けて下さい。
4. 感染を防ぐため、イヤフォンは使用前と使用後に消毒剤で拭きます。耳に不快感や炎症が生じた場合は、イヤフォンの使用を中止して下さい。

イヤフォンの特徴

Shure SCL シリーズイヤフォンは、Shure パーソナルモニターシステムと共に使用するよう設計されています。その他にも、CD プレーヤーや MP3 プレーヤー、ノート型パソコン、他のリスニング機器など、3.5 mm (1/8 インチ) ステレオ出力をもつ機器との使用に理想的です。

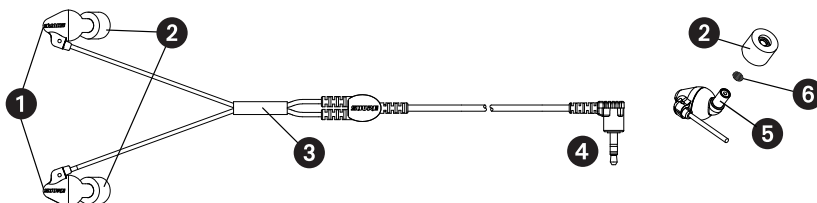
機能:	SCL3	SCL5
小型・高エネルギー変換器	✓	✓
フルレンジダイナミック変換器	X	X
ユニバーサルフィット	✓	✓
各種遮音スリーブ (付属)	✓	✓
カスタム成形スリーブ (オプション)	✓	X
ケーブル固定用アジャストメントチューブ	✓	✓
イヤフォンの耳垢除去用ツール	✓	✓
イヤフォンの耳垢蓄積を防ぐワックスガード	X	X

✓ = このモデルにある機能。

X = このモデルにはない機能。

イヤフォンの構成部品

SCL3 モデルを例にとって、下図にイヤフォンの構成部品を示します。お使いのモデルによって、イヤフォンの形状は異なることがあります。



- 1 **イヤフォン。** 正しく装着すると、イヤフォンの外側に Shure ロゴが逆さまでなく正しい方向になり、ケーブルが上向きに出た状態になります。イヤフォンの挿入方法についての詳細は、16 ページを参照して下さい。
- 2 **スリーブ。** イヤフォンの全モデルに装着済みスリーブ1組および各種フレックススリーブおよびフォームスリーブが付いています。17 ページの「スリーブの種類」を参照して下さい。
- 3 **アジャストメントチューブ。** しっかり固定するために、このアジャストメントチューブを上下に動かして、イヤフォンにつながるケーブルの緩みを調整します。
- 4 **入力コネクター。** 3.5 mm (1/8 インチ) プラグは、リスニング機器の 3.5 mm ステレオイヤフォン出力に接続します。
- 5 **ノズル。** スリーブでカバーされているイヤフォンのこの部分は、音を耳穴に送ります。ノズルを清潔に保つことは重要です (18 ページの「取扱いとクリーニング」を参照して下さい)。
- 6 **ワックスガード。** (SCL3 型モデルのみ) 特別なワックスガード (装着はされていない) が付属しており、ノズルに耳垢がたまるのを防ぎます。ワックスガードの取付方法は、19 ページを参照して下さい。

イヤフォンの挿入

周波数特性のクオリティと外部音の遮断は、イヤフォンのスリーブが耳穴によく密着しているかどうかにかかっています。イヤフォンの低周波数特性が不足しているような場合は、耳穴により深く挿入して密着させるか、別のスリーブを使用して下さい。

1. 次のガイドラインに従ってイヤフォンを挿入して下さい：

- イヤフォンの左右の違いにご注意下さい：

SCL3: 単色のイヤフォン = 左耳

2 色のイヤフォン = 右耳

SCL5: 青いドットと "L" のあるイヤフォン = 左耳

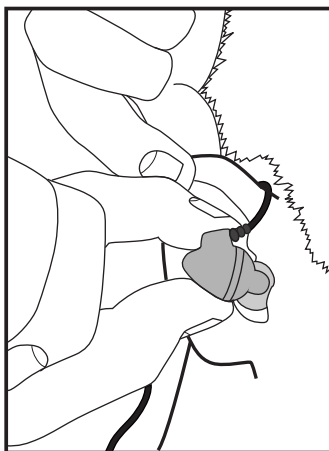
赤いドットと "R" のあるイヤフォン = 右耳

SCL5: 青いドットのあるイヤフォン = 左耳

赤いドットのあるイヤフォン = 右耳

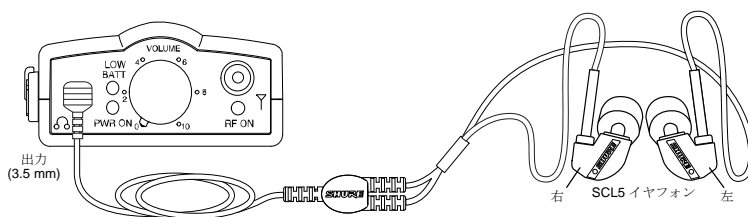
イヤフォンを挿入する際、図のように耳を上外側に引っ張って、耳穴をまっすぐにします。

- **フレックススリーブ** - 異なるサイズを試して、いちばん快適に密着するサイズを見つけます。
- **フォームスリーブ** - イヤフォンの先端にあるフォームスリーブを、親指と人差し指で転がして押し縮めてから挿入します。イヤフォンを耳穴に挿入し、フォームが膨張してぴったり密着するまで約 10 秒間イヤフォンを支えます。SCL3 型には 3 種類のサイズのフォー



2. **SCL3 および SCL5 :** イヤフォンコードを耳の上側から裏に回して下ろします。
SCL5: フォームフィットワイヤーを耳の上側から裏に回して下ろします。
3. アジャストメントチューブを使って、ケーブルが快適に落ち着くようにします。

ボディパックに接続




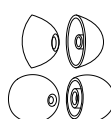
1. リスニング機器の音量を下げます。
2. 3.5 mm (1/8 インチ) プラグをイヤフォン出力ジャックに差し込みます。
3. イヤフォンを耳に挿入します (前ページを参照して下さい)。
4. 快適なリスニングレベルまで音量をゆっくりと上げます。

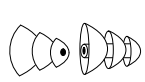
 **警告** : 音源にイヤフォンを差し込む際は、必ず音量を下げてください。

スリーブの種類

イヤフォンには各種スリーブ付きのフィットキットが付属していますので、用途に合う最適のスリーブをご利用下さい。また、SCL5 および SCL5 にはクリーニングツール (18 ページの図 1 を参照)、SCL3 にはワックスガード (19 ページの「ワックスガード」のセクションを参照) が付属しており、イヤフォンノズルに耳垢がたまるのを防ぎます。

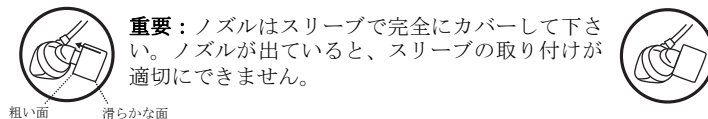
 **フォームスリーブ**。フォームスリーブは使い捨てで、押し縮めて耳穴に入れ、フィットさせます。耳穴に入れると、フォームが膨らんで、タイトに密着します。タイトに密着したら、イヤフォンがしっかりと固定されます。SCL5 型と SCL5 型には黄色のフォームスリーブが付属しています。SCL3 型イヤフォンにはオレンジ色のフォームが付属しています。これには小・中・大の 3 サイズがあり、この中からいちばん良くフィットするものを選びます。

 **フレックススリーブ**。柔らかい透明なプラスチック製 (PA756) またはグレーのシリコーンゴム製 (PA758) の再使用可能なスリーブで、耳に快適にフィットし、挿入も簡単です。小・中・大の 3 サイズがあり、この中からいちばん良くフィットするものを選びます。アルコール綿や消毒剤を用いて定期的にクリーニングする必要があります。

 **トリプルフランジスリーブ (SCL3・SCL5 型のみオプションアクセサリ)**。イヤフォンをしっかり固定し、フレックススリーブよりもタイトに密着します。アルコール綿や消毒剤を用いて定期的にクリーニングする必要があります。

スリーブの交換

イヤフォンの先端についているスリーブは、滑らせて脱着することにより交換できます。スリーブを取り外す際は、ねじりながら引っ張るようお勧めします。



注記 : フォームスリーブには粗い面と滑らかな面があります。Shure では、より快適にご利用いただくために、滑らかな面を外側に、粗い面をイヤフォン側にするようお勧めしています。SCL3 型モデルのイヤフォンでは、滑らかな面を外側にしないと、イヤフォンの適切なフィットが得られません。

ケアとクリーニング

故障修理や耳の感染症を防ぐため、次のポイントに従ってください：

- ノズルに水気が入らないようにして下さい。水気により音質が低下することがあります。ノズルに汗が入るとイヤフォンが一時的に作動しなくなることがあります。しかし多くの場合、イヤフォンが乾いたら通常の作動状態に戻ります。
- イヤフォンを物にぶつかけたり落としたりしないようにして下さい。過度のショックによりイヤフォンが破損することがあります。
- 未使用時はイヤフォンを携帯ポーチに入れておいて下さい。
- SCL3/SCL5:** 付属の耳垢除去ツールを使用して、ご使用後に毎回、ノズルをクリーニングして下さい。

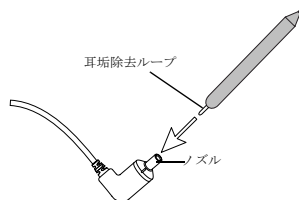


図 1 : SCL5 耳垢の除去

- SCL3:** ノズル先端のワックスガードを定期的にチェックして下さい (19 ページの図2 を参照して下さい)。ワックスガードが詰まっているように見えたら、交換して下さい。
- フォームスリーブは、汚れたら捨てて新しいものに交換して下さい。
- フレックスおよびトリプルフランジスリーブは、ご使用後毎回または共有した後、消毒剤または石鹼水でクリーニングして下さい。
- クリーニングの前には必ず、イヤフォンノズルからスリーブを取り外して下さい。
- ケースとケーブルも、ご使用後に毎回、消毒剤を使って拭いて下さい。耳に不快感や炎症が生じた場合は、イヤフォンの使用を中止して下さい。



注意：Shure イヤフォンは水に浸けられません。フレックスおよびフランジスリーブが完全に乾いてからイヤフォンノズルに取り付けて下さい。

注記：ノズルに耳垢が溜まってイヤフォンが詰まることがあり、音質低下の原因となります。音の減損が生じた場合は、製品を修理に出す前に、ノズルが詰まっているか調べて下さい。耳垢除去にも修理費がかかります。

保証期間中、本製品に欠陥があると思われる場合は、ユニットを注意して梱包し、保険をかけて郵便料金前払いにて弊社までご返送下さい。

Shure Incorporated
Attention: Service Department
5800 W. Touhy Avenue
Niles, IL 60714-4608 U.S.A.

米国外にお住まいの場合は、販売店または認可サービスセンターまで製品をお持ち下さい。

ワックスガード

SCL3 型イヤフォンをお使いの場合は、ワックスガードを取り付けてご使用下さい。この保護用リングはイヤフォン付属のフィットキットの接着性ストリップに付いています。

SCL3 型イヤフォンにワックスガードを取り付けるには：

1. イヤフォンノズルからスリーブを取り外します。
2. 汚れたワックスガードが付いている場合は、剥がして捨てます。
3. SCL3 ノズルの先端を消毒剤かアルコール綿で拭きます。
4. ノズルの先端が乾いたことを確認してから、付属のストリップにあるワックスガードを剥がし、粘着面を下にしてノズルの先端に置きます。
5. スリーブをイヤフォンに取り付けます。



図 2 : SCL3 ワックスガードの取り付け

重要：ワックスガードはスリーブに取り付けしないで下さい！ワックスガードはイヤフォン先端専用です。スリーブに取り付けると適切に機能せず、スリーブから落ちて耳の中に入ることがあります。

仕様

	SCL3	SCL5
変換器の型	小型 / 高エネルギー	デュアル・小型 / 高エネルギー
感度 (1kHz)	113.5 dB SPL/mW	122 dB SPL/mW
インピーダンス (1kHz)	29 Ω	110 Ω
出力コネクター	金メッキ、3.5 mm (1/8 インチ)、ステレオプラグ	
ケーブル長さ	1.52 m (60 インチ)	1.55 m (61 インチ)
重量	28 g (0.9 オンス)	31 g (1.1 オンス)

認証

CE マーク許可を取得。欧州 EMC 指令 89/336/EEC に適合。住宅地環境 (E1) と軽工業環境 (E2) について、欧州標準 EN 55103 (1996) パート 1・パート 2 の適合試験および性能基準を満たしている。

付属のアクセサリ

SCL3 型用携帯ポーチ	95A2232
SCL5 型用携帯ポーチ	95B2232
SCL5 型用携帯ポーチ	80B8232
SCL3 型用フィットキット (ワックスガード付き) (小・中・大のフォームおよび透明なフレックススリーブ各 2 つずつ)	90XH1371
SCL3/SCL5 型用フィットキット (クリーニングツール付き) (小・中・大の透明なフレックススリーブおよび柔らかいグレーのフレックススリーブ各 2 つずつ、フォームスリーブ 1 組)	90XJ1371

TABLE 1 TABLEAU 1 TABELLE 1 TABLA 1 TABELLA 1

Country Code Code de Pays Länder-Kurznel Código de país Codice del Paese	P7T-HF (722 – 746 MHz)	P7T-MN (800 – 830 MHz)	P7T-KE (842 – 865 MHz)	P7T-P5 (722 – 746 MHz)
A	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
B	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
CH	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
D	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
E	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
F	*	*	*	722–746 MHz*
GB	722 – 746 MHz *	*	842 – 865 MHz *	*
GR	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
I	722 – 746 MHz *	*	863 – 865 MHz*	*
IRL	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
L	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
NL	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
P	722 – 746 MHz *	800 – 830 MHz *	842 – 865 MHz *	*
DK	*	800 – 820 MHz *	863 – 865 MHz*	*
FIN	*	800,1 – 819,9 MHz *	863 – 865 MHz*	*
N	*	800 – 820 MHz *	863 – 865 MHz*	*
S	*	800 – 814 MHz *	863 – 865 MHz*	*
All Other Countries Tous les autres pays Alle anderen Länder Demás países Tutti gli altri Paesi	*	*	*	*

*Please contact your national authority for information on available legal frequencies for your area and legal use of the equipment.

*Se mettre en rapport avec les autorités compétentes pour obtenir les informations sur les fréquences autorisées disponibles localement et sur l'utilisation autorisée du matériel.

*Für Informationen bezüglich der für Ihr Gebiet verfügbaren gesetzlich zugelassenen Frequenzen und der gesetzlichen Bestimmungen für den Einsatz der Geräte setzen Sie sich bitte mit der zuständigen örtlichen Behörde in Verbindung.

* Comuníquese con la autoridad nacional para obtener información en cuanto a las frecuencias legales disponibles y usos legales del equipo en su área.

*Rivolgersi alle autorità competenti per ottenere informazioni relative alle frequenze autorizzate nella propria regione e alle norme che regolano l'uso di questo apparecchio.

EU DECLARATION OF CONFORMITY

We, Shure Incorporated
of 5800 Touhy Avenue
Niles, Illinois, 60714-4608 U.S.A.
Phone: (847) 600-2000
Web: www.Shure.com

Declare under our sole responsibility that the following product

Model: P7T Description: Personal Stereo UHF Transmitter

conforms to the essential requirements and other relevant provisions of the R&TTE Directive (1999/5/EC).

The product complies with the following product family, harmonized or national standards:

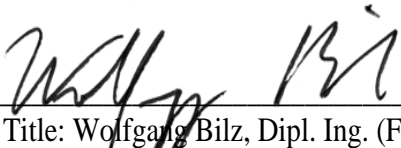
EN 301 489-1 V1.4.1 (2002-08)
EN 301 489-9 V1.2.1 (2002-08)
EN 300 422-1 V1.2.2 (2000-08)
EN 300 422-2 V1.1.1 (2000-08)
IEC 60065:1998
EN61000-3-2:2000 Amendment A1:1998; A2:1998; A14:2000
EN 61000-3-3 Amendment A1:2001

The technical documentation is kept at:
Shure Incorporated, Corporate Quality Engineering Division
SHURE Europe GmbH, EMEA Approval

Manufacturer: Shure Incorporated

Signed:  Date: 25 September 2007
Name and Title: Craig Kozokar, EMC Project Engineer, Corporate Quality Engineering Division

European Representative: SHURE Europe GmbH

Signed:  Date: 25 September 2007
Name and Title: Wolfgang Bilz, Dipl. Ing. (FH), EMEA Approval
SHURE Europe GmbH
Headquarters Europe, Middle East & Africa
Wannenäcker Str. 28
D-74078 Heilbronn, Germany
Phone: +49 - (0)7131 - 7214 - 0
Fax: +49 - (0)7131 - 7214 - 14

EU DECLARATION OF CONFORMITY

We,
of

Shure Incorporated
5800 Touhy Avenue
Niles, Illinois, 60714-4608 U.S.A.
Phone: (847) 600-2000
Web: www.Shure.com

Declare under our sole responsibility that the following product

Model: P7R Description: Personal Stereo UHF Receiver

conforms to the essential requirements and other relevant provisions of the R&TTE Directive (1999/5/EC).

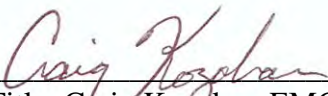
The product complies with the following product family, harmonized or national standards:

EN 301 489-1 V1.4.1 (2002-08)
EN 301 489-9 V1.2.1 (2002-08)
EN 300 422-1 V1.2.2 (2000-08)
EN 300 422-2 V1.1.1 (2000-08)

The technical documentation is kept at:

Shure Incorporated, Corporate Quality Engineering Division
SHURE Europe GmbH, EMEA Approval

Manufacturer: Shure Incorporated

Signed:  Date: 3 March 2006
Name and Title: Craig Kozokar, EMC Project Engineer, Corporate Quality Engineering Division

European Representative: SHURE Europe GmbH

Signed:  Date: 3 March 2006
Name and Title: Wolfgang Bilz, Dipl. Ing. (FH), EMEA Approval
SHURE Europe GmbH
Headquarters Europe, Middle East & Africa
Wannenäcker Str. 28
D-74078 Heilbronn, Germany
Phone: +49 - (0)7131 - 7214 - 0
Fax: +49 - (0)7131 - 7214 - 14

SHURE®

United States:
Shure Incorporated
5800 West Touhy Avenue
Niles, IL 60714-4608 USA

Phone: 847-600-2000
Fax: 847-600-1212
Email: info@shure.com

Europe, Middle East, Africa:
Shure Europe GmbH
Wannenäckerstr. 28,
74078 Heilbronn, Germany

Phone: 49-7131-72140
Fax: 49-7131-721414
Email: info@shure.de

Asia, Pacific:
Shure Asia Limited
Unit 301, 3rd Floor
Citicorp Centre
18, Whitfield Road
Causeway Bay, Hong Kong

Phone: 852-2893-4290
Fax: 852-2893-4055
Email: info@shure.com.hk

**Canada, Latin America,
Caribbean:**
Shure Incorporated
5800 West Touhy Avenue
Niles, IL 60714-4608 USA

Phone: 847-600-2000
Fax: 847-600-6446
Email: international@shure.com